

令和7年度 さかえホーム 事業報告書

1 総括

開設から5年が経過し、殆どの入居者が週末を除き、ホームで安定して過ごしているように見受けられる。住環境に慣れ各々の生活リズムが確立されてきたことや職員や入居者同士で良い関係性が作られていることが要因と考えている。病気による自宅療養中の入居者が1名いるが、月に2～3日は体調が良い時に日中利用しており、穏やかに過ごしている。6年度に起きた一部職員の入居者への乱暴な発言への反省から、7年度は入居者の心情理解と気持ちに寄り添った支援の周知徹底を行い、改善が見られている。また、個別支援計画に基づいた支援という考え方が徐々に職員に浸透しつつあると感じている。職員の支援の質の向上が見られた一方で、開設以来の課題である人員不足は解消されていない。職員の勤務調整で支援体制を確保したが、施設長やユニットリーダーの負担が大きくならざるを得ない状況であった。

2 事業概要

- 1) 施設名 さかえホーム（ユニット：すずらん、あやめ）
- 2) 事業種別 共同生活援助（日中サービス支援型）
- 3) 所在地 東京都小平市栄町二丁目1番15号
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 14名（すずらん7名、あやめ7名）
- 6) 利用現員 14名（すずらん7名、あやめ7名）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 令和3年4月1日
- 9) 職員
管理者 1名
サービス管理責任者 1名（常勤換算 0.2）
世話人 8名（常勤換算 6.1）
生活支援員 12名（常勤換算 6.4）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

- 4 基本方針 1) 安定した日常生活の保障
2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
3) 入居者の相談支援
4) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 日中グループホームで過ごす方への必要な支援
- 7) 入浴等生活行為の支援
- 8) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

- | | | |
|---------|--------|--------------------|
| 5時00分～ | 7時30分 | 起床 |
| 7時30分～ | 9時30分 | 日中活動先及び勤務先等へ外出 |
| | } | 希望者は日中グループホーム内で過ごす |
| 15時40分～ | 17時00分 | 帰宅 |

16時00分～20時30分 入浴
18時15分～19時15分 夕食
20時00分～23時00分 就寝

7 重点課題

1) 活動

(1) 入居者が安心して充実した生活を送れるよう支援する。

- ① 本人の状況を丁寧に観察すると共に、家族や日中活動先等と情報共有を密にし、一人ひとりに丁寧な支援を行う。
- ② 入居者と信頼関係を築くと共に、入居者間の人間関係に配慮し、良好な関係が築けるようにする。
- ③ 入居者の心情理解に努め、これに寄り添った言葉かけや対応を行う。
- ④ 安心できる環境づくりを行う（空間・関係性・関わり方・健康管理 など）。

【成果と課題】

さかえホームでの生活が5年を経過し、人間関係や環境に安心感を持って生活しているように見受けられる。入居当初に比べ、意思表示や要求が増え、問題行動や体調不良が減少している。家族や日中活動先との連絡調整、通院同行などの支援体制が強化されたほか（対応できる職員が1名から2名に増員）、これまで不十分であった衛生保持や居室の整理整頓等の支援もやや改善が見られた。

⑤ 感染症発生時、感染症蔓延防止に努める。

【成果と課題】

消毒、検温、換気、職員のマスク着用等基本的な感染対策を継続して行った。ホーム内での感染症は発生しなかった。

⑤ 事故防止を徹底する

- ・ 服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故防止を徹底する。
- ・ 無断外出行為のある利用者の安全確保のため、見守りを徹底する。また、必要止むを得ない場合は本人、家族の同意を得て夜間の建物施錠を行う。
- ・ 整理整頓や環境への配慮など転倒等によるけがの防止に努める。
- ・ 入居者の行動特性を理解し、支援の統一を図ることにより未然に事故を防ぐ。

【成果と課題】

怪我等の重大事故は発生しなかった。入居者の安定化に加え、行動特性の把握による物損や他害などの未然防止により事故発生リスクが減少している。入居者の安定化により、離接防止等の安全確保のため行っていた各階の階段に繋がるドアの施錠を5月に取りやめたが、事故は起きなかった。

(2) 高齢化に向け将来に備えたホームの機能を拡大する

本人、家族のニーズ（本人の機能低下、家族の介助機能低下、その他生活に関する希望など）に応じて柔軟に支援の見直しや拡充を行う。

【成果と課題】

6年度と同様に3名の通院同行、日中活動先の諸手続き、預り金管理等の支援を行ったほか、家族からの希望により7年度は新たに2名に対し、家族と一緒に定期通院に同行した。

(3) 個別支援計画の作成・評価の充実を図る

- ① 長期的な視点や生活全般の目標設定を計画に盛り込むとともに、支援の統一が図れるよう、より具体的な支援内容を盛り込んだ計画を作成する。
- ② 個別支援計画を全職員で共有する。
- ③ 個別支援計画に基づいた支援を行い、支援経過の記録や会議等で共有するとともに、それに基づいた評価、見直しを実施する。
- ④ ケース記録の充実

- ・利用者の行動のみでなく、その背景や心情の考察
- ・利用者の嗜好、変化等に対する気づき
(管理者や現場責任者がケース記録を随時確認し、必要に応じて助言指導を行う。職員の業務チェック表で実施の有無を確認する。)

【成果と課題】

7年度当初は計画の具体性が不十分で、実際の支援に活用しにくいものとなっていたことから(抽象的な表現が多く、支援内容や方法が不明確)、支援計画の中間の見直しを行う際に支援方法や入居者の状態等を具体的に計画に盛り込んだ。個別支援計画を確認しながら支援にあたる職員も増えてきており、徐々にではあるが計画に基づいた支援が浸透してきているように感じる。ケース記録は、個人差はあるが、徐々に丁寧な記載が増えている。

(4) 医療機関との連携を図る

訪問診療を導入し、予防を含めた疾病への対応、感染症対策、服薬管理等について相談し、入居者の健康維持に努める。

【成果と課題】

訪問診療及び訪問看護の仕組みや導入方法等について訪問看護ステーションへ訪問し相談を行った。7年度末現在訪問看護を利用している入居者は居ないが、高齢化や基礎疾患のため、1名の入居者に健康問題への対応策が必要と考えており、今後利用に向けて検討を行いたい。

2) 人材確保と育成

(1) 併設しているゆずの樹はうすと合わせ常勤換算13.5名の支援体制の安定確保

- ・職員募集のチラシを掲示する(短期入所建物のほか、法人内通所事業所の建物にも依頼)。
- ・法人外の会議や関係機関等へ積極的に求人の呼びかけを行う。
- ・ハローワーク、求人誌、人材紹介、派遣職員などの各種媒体を通じて職員募集を行う。

【成果と課題】

法人の求人活動のほか、独自に建物への職員募集チラシの掲示や地域の会議等での広報を行った。7年度末の職員数は昨年度末の職員数常勤換算から1.7名増の12.5名となったが(配置基準8.6名)、目標の職員数に常勤換算1.0名不足している。職員が充足していない曜日は、他の曜日に勤務している職員の勤務増で支援体制を確保した。

(2) 職員間の連携・情報共有によるチーム支援の充実を図る。

①情報共有

- ・施設長及びユニット責任者は、入居者の予定表、ケース記録、業務日誌、申し送りノートへの記入を漏れなく行う
- ・職員は支援業務に入る前に必ず申し送りノート、ケース記録等の確認を行う。また、管理者及びユニット責任者は、職員確認欄のチェックを漏れなく行う。
- ・月1回ケース検討会議を行い、利用者の支援方針、具体的な支援内容について協議する。また、欠席した職員には、施設長及びユニット責任者から書面及び口頭により周知する。

②業務標準化

- ・日常の利用者支援における基本的な確認事項(衛生面、服装、整容、体調確認、持ち物等)を掲示し、職員は支援業務に入る前に毎回確認する。
- ・実際の支援を通し、施設長及びユニットの責任者から現場職員へ支援方針や具体的な支援内容を伝え、支援の統一を図る。

③事業計画の進捗状況を事業所全体で確認し、課題点や改善点を明確にしながら事業を実施する。

【成果と課題】

職員間の情報共有は概ねスムーズにできている。課題であった季節にあった服装、身だしなみ、忘れ物等についての確認は、申し送りやマニュアル等の活用、職員一人ひとりの意識づけにより年々改善してきているが、依然職員に個人差がみられ、徹底には至っていない。

(3) 個別支援計画の作成・計画の基づく支援・評価の充実を図る

- ① 長期的な視点や生活全般の目標設定を計画に盛り込むとともに、支援の統一が図れるよう、より具体的な支援内容を盛り込んだ計画を作成する。
- ② 個別支援計画を全職員で共有する。
- ③ 個別支援計画に基づいた支援を行い、支援経過の記録や会議等で共有するとともに、それに基づいた評価、見直しを実施する。
- ④ ケース記録の充実
 - ・利用者の行動のみでなく、その背景や心情の考察
 - ・利用者の嗜好、変化等に対する気づき(管理者や現場責任者がケース記録を随時確認し、必要に応じて助言指導を行う。職員の業務チェック表で実施の有無を確認する。)

【成果と課題】

1)、(3)に記載の通り。

(4) 権利擁護、虐待防止の徹底

- ① 権利擁護、虐待防止等の外部研修を積極的に受講するほか、OJT、内部牽制によって権利擁護の実践、虐待防止の徹底を図る。

【成果と課題】

1名が東京都主催の権利擁護、虐待防止研修、他1名が同じく東京都主催の強度行動障害研修基礎研修を受講した。また、日々の支援の中でプライバシーや権利侵害の可能性がある接し方があった際は(ノックをせずに居室を開ける、本人の意思に関係なく居室にいるように促す、乱暴な言葉かけなど)管理者やユニットリーダーから、その都度注意を行い、年々改善してきている。職員間でも不適切な支援に対して注意し合う場面が7年度になりみられるようになってきた。

(5) 管理者の技能向上

- ① PDCAサイクルに関する技能の向上。
- ② 事業管理に係る各種手続きの円滑な実施。
- ③ 職員への指導力向上

【成果と課題】

OJTによる職員指導は成果があり、全般的に職員のスキルアップが図られた。しかし、人員不足の影響もあり、現場支援に時間を割くことが多く、事業管理の事務面においては大きな進歩は見られなかった。

(6) ユニットリーダーの管理業務の拡充

- ① 職員の勤務表の作成、緊急時の支援体制の確保など、事業管理業務の幅を広げる。

【成果と課題】

ユニットリーダーが契約職員の月々のシフト管理を行い、入居者の急な発熱などの日中緊急時の支援体制の確保を行った。また、下半期より出納職員に任命された職員は小口現金の管理を適切に行った。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 在庫管理による無駄な消費の削減を行う。

【成果と課題】

消耗品の在庫管理を実施し、無駄な支出は抑えられている。

(3) 入居者の経済的負担の軽減

- ① 節電、節水等節約の履行

②計画的な食材の購入

【成果と課題】

節電、節水に取り組み、食品は安価な店舗で購入するなど工夫をした。前年度比で利用実績の減少が影響し、水道光熱費は約18万円、食費は約20万円減額となり、合計約38万円減額となった。各種経費は徴収している利用料から賄うことができた。

(4) 訓練給付費収入等の安定確保を行う。

目標利用率： 約73%

【令和7年度目標額】

・訓練給付費収入	3,540万円
・都加算収入	1,280万円
	4,820万円

【成果と課題】

入居者1名の疾病による利用率低下が大きく影響し、7年度は利用率が65.6%で目標の73%を7.5%下回り、昨年度の69.9%も下回った。運営費収入は年間目標を超えたが、昨年度比で約50万円の減収となり、当期資金収支差額は0円付近となった。

《運営費収入》

	令和6年度実績	令和7年度実績	増減
・訓練給付費収入	約3,809万	約3,646万	約△163万
・都加算収入	約1,252万	約1,359万	約107万
合計	約5,061万	約5,005万	約△56万

《利用率》

	令和6年度	令和7年度	増減
・利用率	69.9%	65.6%	△4.3%

(5) 事務の正確性を向上する。

- ・利用料の精算については、決算終了後速やかに精算を行う
(精算時に必要な食事の有無を毎日正に記録し、週に1回一覧表へデータ入力する)。
- ・基本的業務の一覧表を毎日確認し、計画的に漏れなく事務作業を行う。

【成果と課題】

利用料の精算に必要な食事回数を速やかに記録し、迅速に精算を行った。月次試算や証憑整理、各種手続き等については、計画的に実施することができず、期日直前に取り掛かることでミスが散見された。

8 その他の課題・目標

1) 市内グループホームとの連携・強化

【成果と課題】

小平市内のグループホーム連絡会に管理者が年4回(4月、7月、10月、1月)参加した。連絡会では、グループホームの見学会、近況報告会、事例報告会、訓練給付費の加算及び地域推進連携会議についての情報交換会を行った。他の事業所の実践を聞くことができ支援の参考にすることができた。

2) バックアップ施設による支援

(1) 健康相談等一看護師や職員

【成果と課題】

バックアップ施設の看護師に、入居者の体調不良時の経過観察の依頼や通院の必要性等について相談を行った。

- (2) 緊急対応 - ホーム職員の急なけが、病気、その他の理由により支援者が一時的に不足した際は、グループホーム施設長からの要請によりバックアップ施設職員が入居者の直接支援を行う。

【成果と課題】

緊急時の対応等でバックアップ施設に要請する事案は発生しなかった。

＜バックアップ施設＞

- ・ワークセンター夢の樹
- ・夢の樹みどり
- ・夢風船

3) 夜間等緊急時の対応

【成果と課題】

緊急時は、管理者と主たる職員の2名の計3名が対応することとなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

9 事故報告

なし。

10 実施状況

- 1) サービス実施日数 期間 自：令和7年4月1日 至：令和8年3月31日
(1) すずらん 365日
(2) あやめ 365日

11 利用状況

- 1) 入居者延人員 3,350人(令和8年3月末)
2) 一日平均利用人員 9,2人(令和8年3月末)

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
すずらん	1,814人	5.0人
あやめ	1,536人	4.2人
合 計	3,350人	9.2人

12 入居者状況(令和8年3月31日現在)

1) 年齢

- ・30歳以上40歳未満 5名
- ・40歳以上50歳未満 8名
- ・50歳以上60歳未満 1名

ユニット	30代	40代	50代
すずらん	3名	3名	1名
あやめ	2名	5名	0名
合 計	5名	8名	1名

2) 障害の状況

(1) 障害の状況

- 愛の手帳2度 9名
愛の手帳3度 2名
愛の手帳4度 2名(内身体障害者手帳愛の手帳所持 1名)
身体障害者手帳3級 1名

身体障害者手帳 4 級 1 名（内愛の手帳所持 1 名）

（2）障害支援区分

区分 2 1 名
区分 3 0 名
区分 4 4 名
区分 5 2 名
区分 6 7 名

ユニット	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
すずらん			1 名	1 名	5 名
あやめ	1 名	0 名	3 名	1 名	2 名
合 計	1 名	0 名	4 名	2 名	7 名

3）居住状況

管内居住 1 1 名 管外居住 3 名

4）性別

男性 1 4 名

1 3 環境の整備

施設内外の美化と利用者周辺の整理整頓、衛生保持につとめ、転倒等の危険防止に努めた。

1 4 健康管理

1）新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を徹底する。

日常的に検温、手洗い、消毒等の基本的な感染対策を行ったほか、通所施設等で感染症が発生した場合は、職員に周知し様子の見守りを徹底した。ホーム内で感染症の発生は無かった。

2）健康診断・身体測定の結果を基に健康状態の把握に努めるとともに、関係事業所や家族との連携を密にし、健康管理・疾病の予防に努める。

- ・入居者の通所先等から健康診断の結果、大きな健康問題を抱えているとの情報提供はなかった。但し、積極的に健康診断の結果を把握する取り組みは行っておらず、成人病予備軍の可能性などの健康状態の把握はできていない。8 年度は健康診断結果の詳細な情報提供を依頼し、健康寿命の伸長の為の取り組みを行いたい。
- ・7、1）、（4）に記載の通り訪問看護の利用の検討を開始した。
- ・1 名が病気のため自宅療養となり、月に数日の頻度で利用している。食事による誤嚥性肺炎の予防措置など家族の協力を得て行った。

1 5 防災計画

管理者の指揮のもとに、非常災害訓練を年 2 回実施した。